

レタスヒゲナガアブラムシの香川県における発生状況と各種薬剤の殺虫効果

藤村 俊夫、青木 英子、藤澤 春子

香川県農業試験場研究報告 第 64 号 (2014 年 3 月) 63-66

平成 22 年 3 月に植物防疫所が実施した輸出検査において、香川県産レタスから日本で未発生のレタスヒゲナガアブラムシが発見された。そこで、植物防疫所と合同で県内における本種の発生状況を調査した結果、観音寺市、善通寺市のほ場で日本で初めて本種が発見されたことから、平成 22 年 6 月 15 日に香川県病虫害発生予察特殊報を発表したところである。その後、同年 6 月に福岡県、12 月に長野県でも発生を認め、特殊報が発表されている。本種は、レタス等の寄主植物を吸汁加害し、ウイルスを媒介するとともに、レタスの結球内部に入りコロニーを作るため、ほ場での発生に気づくのが遅れ、防除困難になることが知られており、本県特産のレタスにおいても重要な害虫になることが懸念された。

そこで、本種のその後の発生状況を調査するとともに、防除指導に必要な各種薬剤の殺虫効果試験を行ったので報告する。

キーワード：レタスヒゲナガアブラムシ， レタス， 薬剤感受性